

伊那トロン株式会社

2018 年度 環境経営レポート

(対象期間 2018 年4月1日～ 2019 年3月31日)



伊那トロン株式会社は常にお客様との綿密なコミュニケーションを図り、企画・開発・製造を通して蓄積したノウハウを駆使して、ニーズに合わせたトータルプランニングをはじめ、ディテールまで徹底したバックアップ&サポートサービスを提供してまいります。また、あらゆる関連機器を小ロットからお引き受けし、信頼性の高い製品を短納期でお客様にお届けすべく全力を尽くしてまいります。

企業理念

- ☆ 創造
新たに物事を考え出す心を持ち続け、常に挑戦する意欲を持ち貫く。
- ☆ 感謝
ありがとうの心を持ち、過去・現在・未来において、
多くの人達に支えられている事を常に意識し続ける。
- ☆ 貢献
社会の発展に力を尽くし役に立つ。
世の中やお客様に対して、何が出来るかを常に考え実行する。
- ☆ 夢・希望・幸福
今ここに幸せを感じ、実現させたい未来に向かい行動し続ける。
これにより、更なる幸せへと繋がっていく。

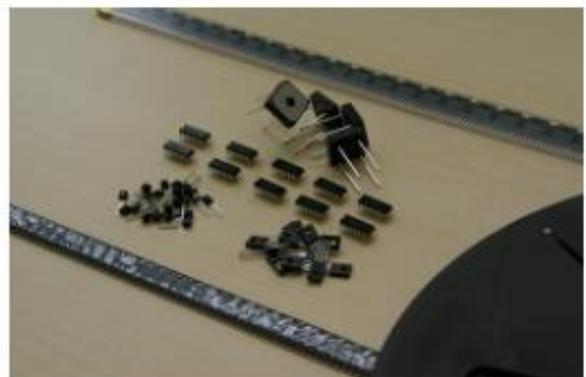
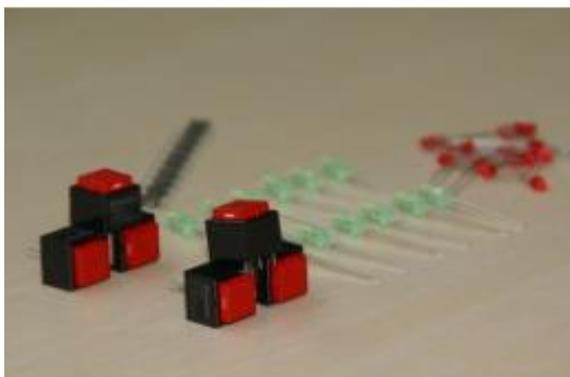
作成日： 2019年4月18日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7～9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	11

取扱品目

一般電子部品/国内外半導体/LED,液晶パネル,光部品/シーケンサー, サーボモーター/制御部品/カスタムPC,周辺機器



環境経営方針

<環境経営理念>

伊那トロン株式会社は常にエレクトロニクスの未来を見つめ、地球環境の保全を社会の捉え、環境負荷軽減を目指した社会作りに貢献します。

<環境保全への行動指針>

- 1 . 伊那トロン株式会社で取り扱う商品の環境負荷軽減と企業活動が両立する環境配慮型ビジネスプランの策定を推進します。
- 2 . 二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減、リサイクル、水使用量削減に積極的に取組み、改善活動を実施します。
- 3 . 事業活動の遂行にあたっては、環境に関する法律、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を確実に順守します。
- 4 . 地域とのコミュニケーションをはかり、地域の環境保全に協力します。
- 5 . 全社員及び当社に関係する会社に環境方針を周知し、設定した環境目的・目標の達成に向けた活動を行い継続的改善をはかります。

制定日： 2006年4月1日

伊那トロン株式会社
代表取締役社長 **松崎 修**

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名
 伊那トロン株式会社
 代表取締役社長 松崎 修

(2) 所在地
 本 社 長野県上伊那郡南箕輪村6135-1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 責任者 営業部長 小川 一夫 TEL：0265-76-3322
 担当者 業務課係長 重盛 徹 FAX：0265-76-2555

(4) 事業内容
 電子部品、制御部品総合卸、基板設計及び組立て、ハーネスの製作

(5) 事業の規模
 売上高 11.5 億円(2018年度)

		本 社
従業員	名	10 名
延べ床面積	m ²	272 m ²

(6) 事業年度 4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

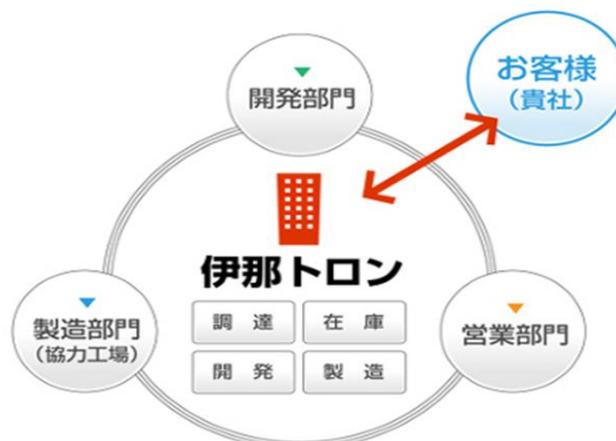
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 伊那トロン株式会社
 対象事業所： 本 社
 全社・全組織での活動

□事業や製品(商品)の紹介

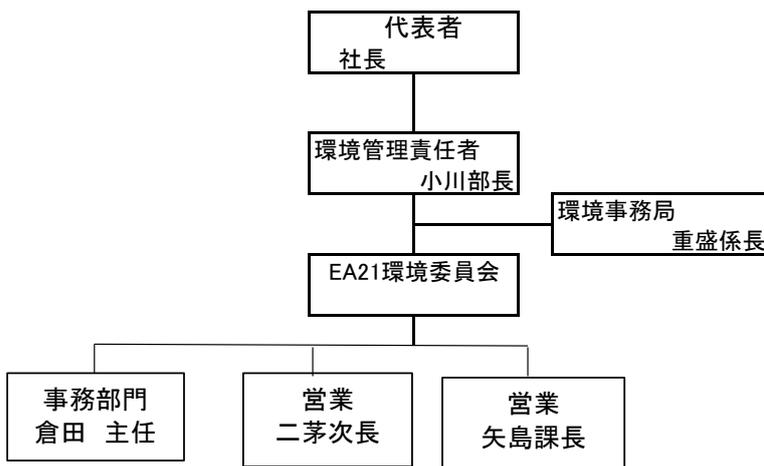
EMS生産

設計から私達が得意とする部品調達、生産、そしてお客様ごとの検査基準に沿ったご要望をお受けし納入いたします。
 現代の少量多品種時代では部品も、より小型化し梱包数も少量生産の割りにテーピングでの購入などお客様にとっては余分な在庫となる例が多くなっております。
 伊那トロンでは抵抗、コンデンサはもとより多品種の在庫を持ちお客様に出来るだけご負担の少ない部品の提案や設計提案をしながらムダを省きつつメリットを出して参ります。



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2018年3月7日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21環境委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
EA21環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	61,062	58,033	58,227
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	k g	75	72	71
産業廃棄物排出量	k g	16	56	62
総排水量	m ³	49	55	58

※二酸化炭素排出係数 0.472 kg-CO₂/kWh 中部電力会社2017年度調整後排出係数

□環境経営目標及びその実績

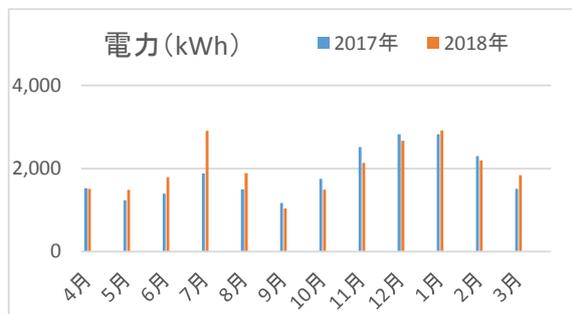
項目	年度	基準値	2018年		評価	2019年	2020年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	10,594	10,488	11,262	×	10,382	10,276
	基準年度比	2017年	99%	106%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	7,244	7,172	7,077	○	7,099	7,027
	基準年度比	2017年	99%	98%		98%	97%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	40,195	39,793	39,888	×	39,391	38,989
	基準年度比	2017年	99%	99%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	58,033	57,453	58,227	×	56,872	56,292
一般廃棄物の削減	kg	72	71	71	×	71	70
	基準年度比	2017年	98%	99%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	56	55	63	×	55	54
	基準年度比	2017年	99%	113%		98%	97%
水道水の削減	m ³	55	54	58	×	54	53
	基準年度比	2017年	99%	105%		98%	97%
グリーン購入の推進 (オフィス用品G購入率)	% (金額率)	100%	100%	100%	○	100%	100%
環境に配慮した業務改善	行動目標(次項による)						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

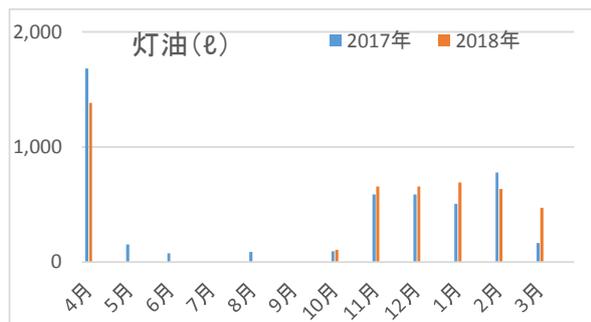
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組評価】2018年度は猛暑となったが、照明の不要時消灯や空調温度管理などにより目標を達成できた。 【次年度の取組】次年度は現在の取組を継続するとともに、照明のLED化や空調設備の省エネ化など検討していきたい。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・昼休みの消灯	○	
・不要照明の消灯	○	
・OA機器の省エネモード設定	○	



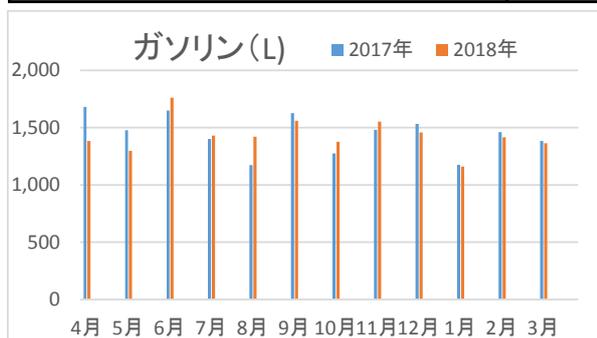
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	1,525	1,239	1,397	1,878	1,496	1,167	1,751	2,520	2,826	2,826	2,295	1,511
2018年	1,511	1,483	1,789	2,909	1,886	1,036	1,488	2,136	2,667	2,916	2,197	1,842

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【取組評価】目標は達成できた。 【次年度の取組】次年度は現在の取組を継続する。
・ウォームビズの実施・導入	○	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・気密性を高め、空気取り入れ口の設置	×	
・		



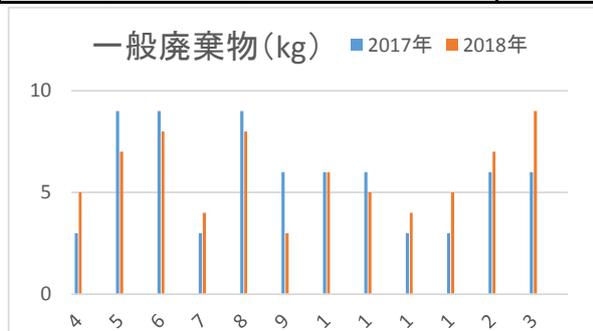
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	1,682	152	76	0	90	0	94	588	588	506	778	165
2018年	1,384	0	0	0	0	0	106	656	656	691	635	471

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組評価】基準年度の99%で目標はほぼ達成した。
・アイドリングストップ	○	【次年度の取組】次年度は現在の取組を継続する。
・効率的なルートで配送	○	
・エリア別営業活動の見直し	△	



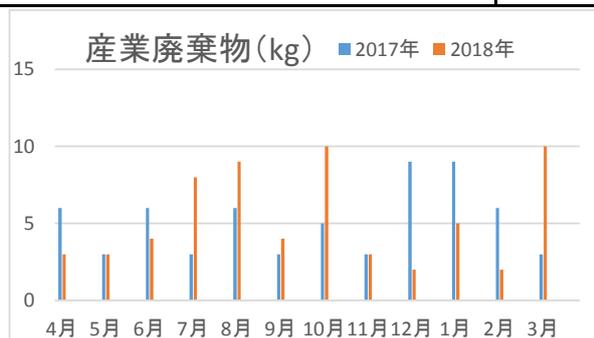
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	1,682	1,479	1,649	1,400	1,172	1,627	1,274	1,480	1,532	1,175	1,460	1,383
2018年	1,384	1,298	1,760	1,430	1,420	1,561	1,376	1,553	1,457	1,161	1,417	1,364

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組評価】目標は達成できた。
・裏紙の使用	○	【次年度の取組】次年度は現在の取組を継続する。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	△	



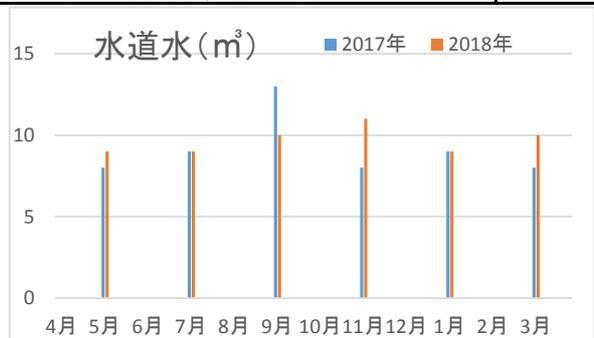
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	3	9	9	3	9	6	6	6	3	3	6	6
2018年	5	7	8	4	8	3	6	5	4	5	7	9

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組評価】目標は未達成。
・素材別ボックスの設置	○	【次年度の取組】次年度は分別に重点を置いて内容を分析する。
・リサイクル業者の開拓	○	
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	6	3	6	3	6	3	5	3	9	9	6	3
2018年	3	3	4	8	9	4	10	3	2	5	2	10

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組評価】目標は未達成でした。人員増が要因と考えられる。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	【次年度の取組】次年度は節水器具の取り付けを予定する。
・節水弁取り付け	×	
・自動水栓取り付け	×	
・トイレに擬音装置取り付け	×	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年	0	8	0	9	0	13	0	8	0	9	0	8
2018年	0	9	0	9	0	10	0	11	0	9	0	10

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【取組評価】目標は達成できた。
・環境に配慮したコピー用紙の使用	○	【次年度の取組】次年度は現在の取組を継続する。

環境に配慮した業務改善	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・環境配慮提案	○	【取組評価】目標は達成できた。
・日常業務改善	○	
仕入先からの現品表の簡素化	○	【次年度の取組】次年度は現在の取組を継続する。
出荷時のミスの削減	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ・梱包材等）
水質汚濁法	灯油の流出
消防法（危険物）	灯油貯蔵タンク
フロン排出抑制法	空調機の簡易点検等

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

2018年4月1日より2019年3月31日までの期間で苦情、要請等はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2018年9月26日11時～11時30分	■実施場所 本社社屋
■参加者： 吉江、佐藤、松崎（一）、中村、倉田、重盛、小川、二茅、矢島	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 足元のヒーターの漏電により出火したとの想定で発見者が大声で火災発生連絡を行い、初期消火として消火器の設置場所、使用方法の確認、また119番通報の模擬訓練、また避難経路の確認を行っている。	
■評価： 消火器の使用法や事前に取り決めた避難経路に従いスムーズに行えた。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子 火災発生連絡により発見者消火器置場の近くの者が設置場所の確認を行い、従業員用玄関と正面玄関より避難を開始、社屋の前に集合して消火器の使用方法の確認を行った	

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日： 2018年9月26日13時～13時30分	■実施場所 灯油タンク周辺
■参加者： 吉江、佐藤、松崎（一）、中村、倉田、重盛、小川、二茅、矢島	■実施内容： ・流出事故対応、通報訓練
■評価： 手順書に基づきスムーズに行えた。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子 タンクの故障による漏洩を想定して、発見者が担当者（部門長）に連絡、担当者はタンクのコックを閉めタンクのコックを閉めた上で影響の及ぶ範囲、故障箇所を確認影響が及ぶ範囲が大きい場合は消防署に連絡をすることを想定して消防署への通報訓練を行った。またタンクの周辺にタオル、スポンジを敷き漏洩の拡大を防ぐ訓練を実施した。	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2019年4月1日

【全体の評価】

エコアクション21の活動により「企業価値を高めていく活動」は当社の企業理念を実現する事に繋がっています。そのことを社員一人一人が自覚していく事が重要です。また、電気の使用量や車の燃料を把握する活動は二酸化炭素の削減を行う事に限らず、日常業務の見直しに繋がります。環境マネジメントシステムの基本であるPDCAを実践する事で「顧客満足」を向上していく事も可能です。今後も更に取組を強化していきたいと考えています。

【環境経営目標の評価】

2018年度の二酸化炭素排出量は全体としては目標を達成しました。2018年度は猛暑の夏でありましたが、空調の温度管理など適正に実施できました。今後も引き続いて活動を継続して行きます。ガソリン使用量の増加は顧客の新規開拓と関係しておりますが、更に営業エリアの見直しやエコドライブの実施、更に効率的なルート選定などガソリン使用量の削減に向けて努力していきます。水道使用量の増加は人員増加が原因と考えられますが、節水弁の取り付けなど検討していきます。

【環境経営方針・環境経営目標・実施体制・その他】

環境経営方針や環境経営目標・計画・実施体制は現状を維持していきます。最近ではSDGsの取組が注目されています。今後は当社にどのような関係があるのか検討していきたいと思えます。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

弊社は4月～12月までの第3月曜日に環境美化活動として会社社屋及び周辺の雑草の駆除やゴミ拾い等を行っています。また冬季の降雪時には早朝より自発的に除雪作業を従業員全員で行っています。

□編集後記

この度、当社の環境経営レポートを作成しました。このレポートは当社の環境活動をご紹介するだけでなくCSRレポートとしての活用を考えています。できるだけ多くの皆様に読んでいただき、ご意見をお聞かせいただきたいと考えています。今後も更に活動を継続して行きたいと考えています。